



特集 えひめ国体開幕

民泊が生んだ絆の輪

9月30日に開幕した「愛媛^{えがわ}なくえひめ国体」。愛媛県での開催は、昭和28年に四国4県で共同開催されて以来64年ぶり、初の単独開催となります。

鬼北町では、正式競技の「バレーボール競技会少年女子」と「バスケットボール競技会少年男子（鬼北町・宇和島市共催）」を開催。そして、バレーボール少年女子では「民泊」を実施しました。

「民泊」とは、全国から国体に参加する監督・選手が宿泊料を支払って、一般家庭で宿泊すること。当町では、食事（朝食・夕食）は集会所や公民館等で共同調理により提供し、宿泊・入浴は一般家庭で行う「共同民泊」を行いました。

国体に出場する24チームの選手団を受け入れるため、町内に誕生した24地区の民泊協力会。協力会の人たちは、この日のために調理実習、拠点施設等の飾り付けや清掃活動など、選手団を気持ち良く迎えるために、各方面からさまざまな準備に取り組んできました。

10月4・5日にかけて、鬼北町に到着した選手団。協力会の人たちは不安と期待が入り混じる中、それぞれに趣向を凝らしたおもてなしで、選手団を歓迎しました。